

平成28年6月10日
千葉県農林総合研究センター長

ハコベハナバエの発生について（ハウレンソウ）

1 病害虫名：ハコベハナバエ *Delia echinata* (Séguy)

2 作物名：ハウレンソウ

3 発生経過

平成28年1月、千葉県北西部の露地栽培ハウレンソウに、葉肉内に潜って食害するハエ類幼虫の発生がみられた。被害ほ場で本幼虫を採集し、この幼虫及び羽化した成虫を千葉県農林総合研究センター病理昆虫研究室で同定したところ、ハコベハナバエと確認された。

なお、現場のハウレンソウにおける被害程度は軽微であった。

4 分布と加害作物

本種はハナバエ科の一種で、九州以北の日本各地および、朝鮮半島、ヨーロッパ、北アメリカに分布することが確認されている。寄主植物はカーネーション、ナデシコ、セキチク、ハコベ、オランダミミナグサ等のナデシコ科植物、ハウレンソウ等とされている。本県でのハウレンソウへの寄生を確認したのは今回が初めてである。

なお、本虫のハウレンソウへの寄生については、神奈川県、東京都、奈良県、埼玉県、群馬県、山口県で発生が確認され、特殊報が発表されている。

5 本虫の特徴

(1) 被害の特徴

本虫は葉裏に点々と1～数粒まとめて産卵する。幼虫はハモグリバエのように葉肉部に食入して潜孔を形成する(図1)。ふ化直後の食害痕は細い線状だが、その後発育するにしたがって広く葉肉を食害するため、袋状の潜孔痕となる(図2)。

(2) 形態

成虫は体長6～7mmで、胸・腹部が灰黄色粉で覆われた黒色のハエである(図3)。蛹は体長5mmで赤褐色俵状である。老齢幼虫は体長6mm程度で淡黄緑色(図4)、卵は長さ1mm程度で白色である。

(3) 生態

老齢幼虫は加害部から脱出して土中で蛹化、約2週間で羽化する。年3世代以上を繰り返すものと考えられる。

6 防除対策

現在のところ本虫に対する登録農薬(※)はないので、以下の物理的・耕種的防除に努める。

- (1) 防虫ネット等を被覆し、産卵を防止する。
- (2) 窒素や有機物の多用は成虫を誘引するので避ける。
- (3) ほ場周辺のハコベ、オランダミミナグサ等の寄主植物となる雑草を除去する。
- (4) 被害葉は見つけしだい処分し、次世代の発生源を断つ。

※登録のあった「オンコル粒剤5」の適用農作物から、ホウレンソウが平成27年7月8日に削除された。



図1 葉肉部への食入痕



図2 袋状の潜孔痕



図3 ハコベハナバエ成虫
(体長6～7mm)



図4 ハコベハナバエ老齢幼虫
(体長約6mm)

病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 808 TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail : cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp